談話室

URA は大学の教育研究にどう貢献できるか

坂口愛沙

はじめに

URA という職名はどれくらい知られているだろうか.「名前は知っているが何をやっている人かよくわからない」という意見をよく耳にする．筆者は，2007 年に博士（理学）の学位を取得し，生物学分野の研究者として国内外で研究を行っていたが，2015 年 6 月より大阪大学大学院理学研究科の URA として教育研究に携わっている．ここでは，URA とはどんな仕事をする人か，筆者の経験も含め簡単に紹介し，URA がどのように大学等で教育研究に貢献できるか，考えてみたい．

1　URA とはどんな仕事をする人か

URA は，University Research Administrator の略で，文部科学省のホームページ[1] には URA の必要性等について以下のような説明がある．

「我が国の大学等では，研究開発内容について一定の理解を有しつつ，研究資金の調達・管理，知財の管理・活用等をマネジメントする人材が十分ではないため，研究者に研究活動以外の業務で過度の負担が生じている状況にあります．このような状況を改善するため，文部科学省は，研究者の研究活動活性化のための環境整備及び大学等の研究開発マネジメント強化等に向け，大学等における研究マネジメント人材（URA）の育成・定着に向けたシステム整備等を行っています.」

上記の文科省による整備は 10 年ほど前に始まり，最近は URA 人材の質保証や認定制度についても議論が進められている．また，リサーチ・アドミニストレーション業務の向上を目指す人々の集まる組織として 2015 年に設立された RA 協議会[2] は，2021 年に一般社団法人として再スタートし，全国の URA 等をつなぐ場として機能している．

URA の業務内容は多岐にわたり，URA に対する期待も大学等によって様々である．具体的には，研究資金の獲得を支援する「プレアウォード業務」，研究費を獲得したあとに研究活動を支援する「ポストアウォード業務」，国内外の科学技術政策や学内研究資源の調査分析を行う業務（研究 IR ともいう）の 3 つを中核業務と称している．これ以外にも，産学連携・国際連携・研究広報など，研究を多面的に支援する「関連専門業務」でも，URA の役割の重要性が増してきている．また，最近は組織の運営・経営面で大学等の執行部へのサポートを期待されているケースもある．

2　大阪大学大学院理学研究科の URA

ほとんどの URA は，上述のうち一部の業務を中心に行っている．筆者自身は理学研究科の教育研究支援体制の充実・強化を図ることを目的に，広報企画や研究企画推進を中心に支援する専任教員として着任した（図 1）．

ちょうど第 2 期中期目標期間（2010 ～ 2015 年度）の最終年度だったこともあり，研究科執行部や事務職員とともに 6 年間の教育研究の状

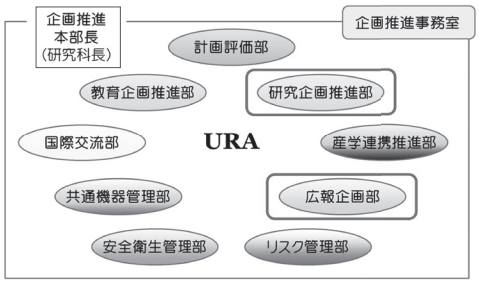

図 1　理学研究科企画推進本部の構造

況をまとめる評価関連業務のサポートが最初の大きな仕事となった．研究者から URA へ転向したばかりで右も左もわからない状態だったが，関係者とともに進める中で，URA が教員と事務職員の間を繋ぐ役割を担っていることや，評価を通して研究科全体の強みや弱みを見つけることで企画立案や広報にも繋がることがよくわかった．

着任してもうすぐ 7 年になるが，計画評価関連では，学内で行われる部局の年度計画・評価やヒアリング，各種外部評価などのためのデータ分析や資料作成のサポートを行い，学内では理学研究科が 2 年連続（2017-2018 年度）で理系部局 1 位の評価を得た．

広報・社学連携関連では，ホームページやパンフレットが中心だった広報に加え，SNS によるプッシュ型広報を開始し，動画制作，パンフレットのリニューアルや電子化，公開講座（図 2 左）の立ち上げなどを支援した．

研究企画推進関連では，研究科内での異分野交流を目的とした研究交流セミナーを継続しつつ，人文社会科学系の研究科を含む豊中キャンパス全体に規模を拡大した大阪大学豊中地区研究交流会（図 2 右）を立ち上げた．その他，大学院生の日本学術振興会特別研究員 DC 申請のサポート，女性研究者が研究やキャリア形成について講演する「女性科学者サミット＠阪大豊中」の立ち上げなど，多方面から教育研究のサポートを行っている．

理学研究科には, 数学, 物理学, 化学, 生物科学, 高分子科学，宇宙地球科学の 6 つの専攻があり，研究内容を全て理解し把握することは非常に難しいが，学位を持つ研究者としての経験が生き，視野や人的ネットワークが広がり，生まれたばかりの研究や未知の世界に触れる瞬間はいつもワクワクする．

おわりに

URA は，支援職であり目立たないことが多いが，教育改革や運営費交付金の減額などにより教員も事務職員も疲弊している現状では，両者をサポートできる人材として必要ではないだろうか．課題としては職の不安定さが挙げられる．多くの URA は任期付きの雇用であり，前述の質保証や認定制度にも関連するが，まずは職の定着が必要である．本稿を通じて，URA の仕事の重要性や面白さが少しでも伝わることを願う．

図 2　理学研究科公開講座サイエンスナイト（左）と大阪大学豊中地区研究交流会（右）のポスター
サイエンスナイト 2022 の案内：
https://www.sci.osaka-u.ac.jp/ja/science-night/

謝辞：深瀬浩一研究科長をはじめとする理学研究科構成員の皆様，大阪大学経営企画オフィスや他部局の URA の皆様，本誌編集者の皆様に感謝いたします．

注および引用文献
（URL 最終閲覧：2022 年 3 月 28 日）

1) 文科省：リサーチ・アドミニストレーター（URA）を育成・確保するシステムの整備
https://www.mext.go.jp/a_menu/jinzai/ura/
2) RA 協議会：業務内容
https://www.rman.jp/ura/business-content.html

（さかぐち・あいさ：大阪大学大学院理学研究科，遺伝学）